

平成 27 年度文字文化財研究所事業報告

中 島 茂

平成 27 年度は文字文化財研究所にとって、厳しい船出の年となりました。それは大学全体の厳しい財政事情を反映して、年間事業予算が削減され、一時は紀要の刊行さえ危ぶまれましたが、なんとか刊行費の復活は果たすことができました。

【稀書の会】

稀書の会は、一昨年度から引き続いて、本学学術情報センターが所有する貴重書から、『弥生日記』の輪読を行なっています。ほぼ毎月一回、図書館会議室にて輪読し、輪読の成果は、継続して文字文化財研究所紀要に掲載し、俳文学会の論文目録にも登録し、国文学研究者が閲覧しやすいようにしています。岡崎と刈谷の俳人の手になる俳書である『弥生日記』は、文化・文政期の尾張三河の高い文化水準を示す作品であり、読解を通して、この地方の俳人とその弟子たちの活発な文化交流を理解できる作品でもあります。それゆえ、作品の理解を深めるために、稀書の会では毎年実地踏査を行っています。本年度は9月13日（日）に豊田・足助方面で、鶴田卓池の書画を豊田市郷土資料館にたずね、足助の俳人板倉塞馬のゆかりの史跡探訪をしました。また、稀書の会では、例年、学術研究情報センターと連携して学術講演会や企画展示を行なっており、今年度は、第六回貴重書展示「愛知県史を彩る俳人たち—芭蕉から卓池・秋挙・塞馬へ—」（長久手キャンパス図書館1階ロビー・11月5日～11月30日）を行いました。豊田市郷土資料館、足助資料館から軸装画、俳額展示に協力いただき、客員共同研究員の堀川貴司慶応大学教授の協力を得て本学貴重書はさみこみの俳人の手紙を解説するなど、意欲的な試みができました。このように、

研究所事業としての稀書の会は、学部教員が地域の文化を守り伝え、支えていく場でもあり、また地域文化を守る人材として院生を研究者へ育てていく場ともなっています。

【共同研究】

客員共同研究員の熊澤美弓氏は、8月11～12日に東京・日光方面にて調査を実施し、その成果は伝承文学研究会大会（9月6日、於南山大学）、民俗学会大会（10月11日、於関西学院大学）で発表されました。

【紀要刊行】

『文字文化財研究所紀要』第2号の刊行。

本冊子をご覧の通り、スペインのアルカラ大学およびスペイン・マドリッド国際政治学研究所の2名の客員共同研究員の論文2本を含め、本学部教員および客員共同研究員の充実した多彩な研究成果を盛り込んで、無事刊行することができました。

【研究所会議】

今年度は研究所会議を以下の通り2回開催しました。

第1回文字文化財研究所会議

開催日時：5月25日（月）16時10分～17時20分

開催場所：文字文化財研究所（H302）

出席者：中島（所長）、久富木原、上川、伊藤、成瀬（学務課職員）

議 題：文字文化財研究所年報第7号掲載論文をめぐる報道への対応

今年度予算の執行計画について

文字文化財研究所紀要第2号の投稿原稿募集について

文字文化財研究所紀要のISSN新規登録について

第2回文字文化財研究所会議

開催日時：7月28日（火）9時30分～10時20分

開催場所：文字文化財研究所（H302）

出席者：中島（所長）、久富木原、上川、伊藤、成瀬（学務課職員）

議 題：来年度事業計画について

来年度予算要求について

【事務報告】

平成 26 年度の研究所の予算・決算報告は以下の通りです。

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	内 容
研究所年報	500,000	492,655	印刷費, 送料
文献・文物の調査	200,000	211,415	研究員調査旅費, アルバイト給与
ホームページ整備	230,000	0	
研究資料購入	70,000	245,700	
運営雑費	29,000	3,440	消耗品, 図録送付代
県大講座 あゆち	-	1,040	
文字のチカラ展	-	24,860	
合 計	1,029,000	979,110	

なお、平成 27 年度の研究所予算は 885,000 円で研究活動費が大きく制約されましたが、紀要の刊行・発送に約 50 万円、稀書の会などの研究旅費・資料購入などに約 10 万円、パソコン購入に約 20 数万円を支出する予定です。研究事業を支える事業活動予算の確保が課題となりました。

文字文化財研究所執務室 (H302) に置かれているパソコンが年度内に新しい機種に更新されます。Windows10 を OS とする最新機種となる予定ですので、積極的に活用していただきたいと思います。